紫水晶の川のほとり

白峰サチコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
紫水晶の川のほとり

【Ｎコード】
Ｎ２６２５Ｄ

【作者名】
白峰サチコ

【あらすじ】
紫水晶の川のほとりに住む、住人たちの朝の風景の詩。牧神が歌うかのような、清きせせらぎの音の朝、陽の光は緑の葉の一枚一枚を、柔らかくなでる中、乙女が、水浴びにやって来る朝の儀式

牧神が歌うかのような、清きせせらぎの音の朝。
陽の光は緑の葉の一枚一枚を、柔らかくなでて
いつものように、「おはよう」と挨拶をする
眠たげに、潤いを帯びていた花々たちもようやく目覚めた。
朝が始まる。今日もまたこの世に素晴らしい音楽が流れるのだ。

乙女が、水浴びにやって来る。朝の儀式。
草花、そして小動物たちも皆そって、彼女がやって来るのを待っているのだ。
小鳥は彼女に微笑み歌いかける
「今朝もあなたはいつになく美しく輝いている。」

乙女はなめらかなミルク色の肌に、近頃さらにまた、輝きを増す黒髪を長く垂らし、櫛を通す。
美しい朝だ。月のしずくは川の水へと姿を変えて、今はこうして、彼女の肌を覚ましている。ひんやりと水晶のように透き通った水面。

手の平を川に沈めると、指の間をキラキラとユラユラと、光のたわみができる。
彼女の爪も、輝きを増した。そして淀み無く澄んだ、この涌き水の流れは、明け方乙女の夢の中で、耳の底に聞こえた調べ

日が暮れた。
夜にはまた水面はいつしか月と変わる。
鏡の水面に落ちた葉は、くるくると消えていく。
静かに水底に葉が沈むように夕陽は沈む。

足元の白い玉砂利はさながら天の川の星。
乙女の足元には今星がある。
彼女の頬にあたる風はまた、この地に眠りし先人たちの清澄なる息吹か？
うるわし　うるわし。乙女は舞う、天女の舞い

朗々たる月の光に今一度、この霊妙な水を飲み干そう。
夜の光の結晶が、固くその身にはりつく前に
森にひしめく無言の鳥たちに見せようか

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2625d/

紫水晶の川のほとり

2010年11月14日08時52分発行